

令和 7 年度  
全国学力・学習状況調査  
長野県の結果

長野県教育委員会

# 令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

学びの改革支援課

- 中学校理科は文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT：Computer Based Testing）で実施しました。（来年度は中学校英語もCBTでの実施を予定しています。）また、IRT（Item Response Theory：項目反応理論）を用いた結果返却を行いました。
- 小・中学校において、「学校に行くのは楽しい」の肯定的回答が、昨年度より増加しています。また、個別最適な学びと協働的な学びの両方に肯定的に回答している児童生徒は、「学校に行くのは楽しい」と回答している割合が高く、教科の得点も高い傾向にあります。
- 小学校において、国語の平均正答率が全国と同程度となり、算数・理科の平均正答率が全国をやや下回りました。中学校では、国語・理科の平均正答率が全国と同程度となり、数学の平均正答率が全国を下回りました。
- 調査結果は、子どものよさや可能性を伸ばす材料として活用できるように、各学校へ伝えていきます。

## 1 長野県の実施状況

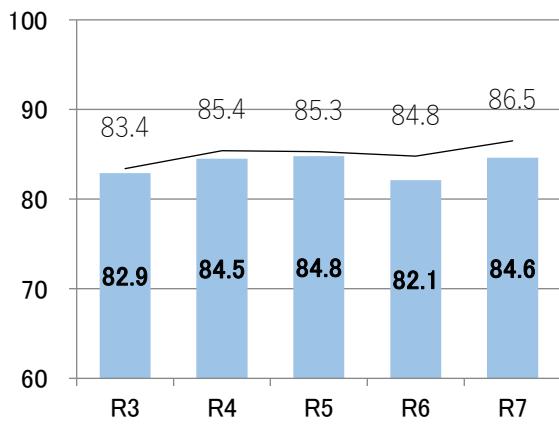
学 校	当日実施学校数（集計対象学校数）	当日実施児童数（小6）・生徒数（中3）
公立小学校	345校（内特別支援学校2校）	15,041人
公立中学校	185校（内特別支援学校3校）	14,333人
公立小・中学校計	530校（内特別支援学校5校）	29,374人

※当日実施児童・生徒数は、回収された解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

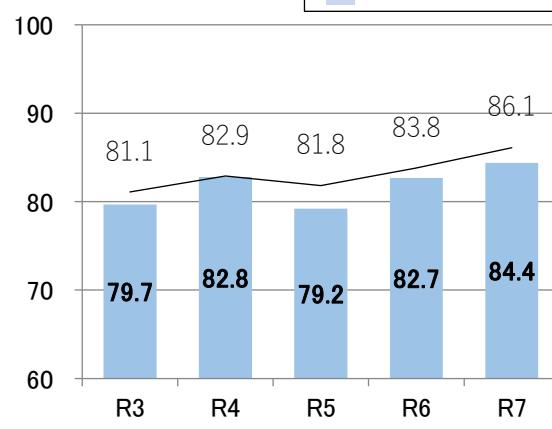
## 2 長野県の「学校に行くのは楽しい」（児童生徒質問）の回答状況

※肯定的回答は、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」を合わせた回答の割合

長野県 ————— 全国



[小学校]



[中学校]

「学校に行くのは楽しい」の質問に対して、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国を下回っているが、小学校・中学校共に、肯定的な回答をした割合が令和3年度から緩やかに増加してきている。

また、「学校に行くのは楽しい」（児童生徒質問）と相関関係が見られる質問についても、児童生徒の肯定的回答の割合が、増加してきている。

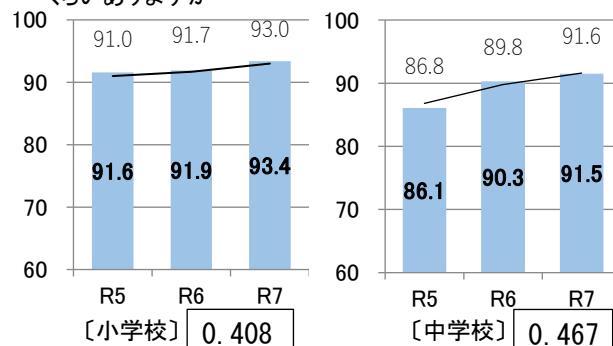
### 3 「学校に行くのは楽しい」と小学校・中学校共に相関係数が高い質問項目の肯定的回数の状況

※  中の数字は、相関係数。「相関係数」は「学校に行くのは楽しい」の質問と、その他の質問の間に相関関係があるかを数値で表したもの。文部科学省では、全国学力・学習状況調査において0.2以上で相関関係があるとみなし、数値が高いほど相関関係が強い。

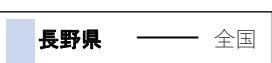
※肯定的回答は、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」を合わせた回答の割合

① 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれ

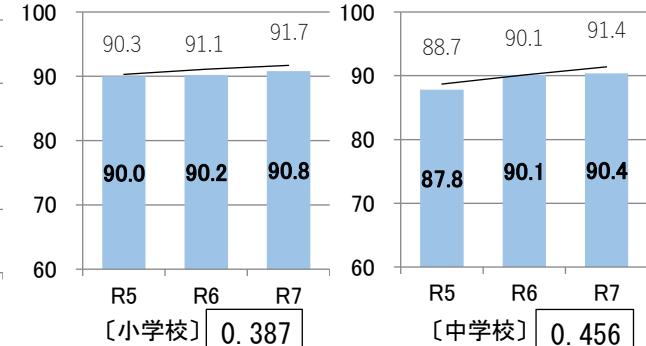
くらいありますか



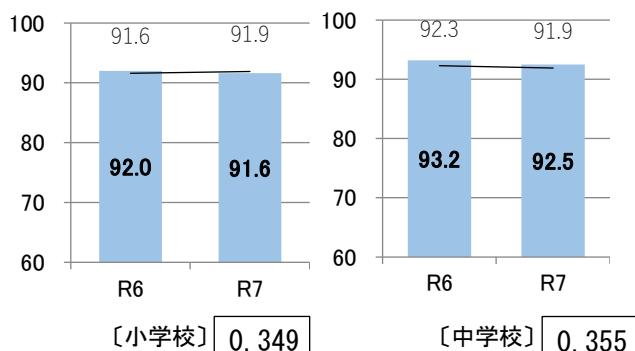
② 友達関係に満足している



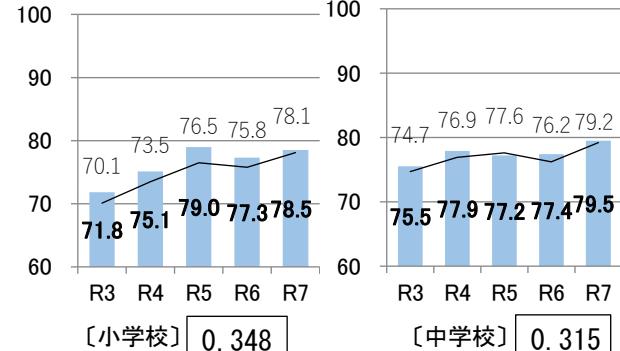
くらいありますか



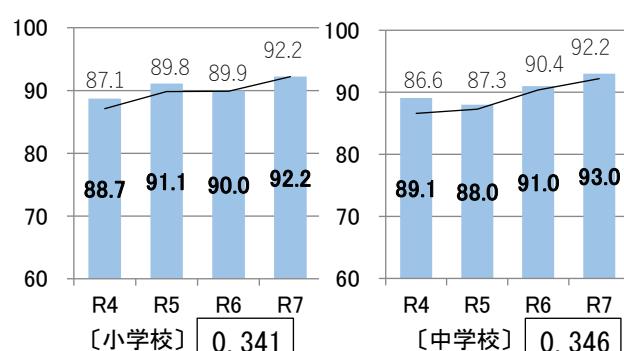
③ 授業や学校生活では、友達や周りの人の考え方を大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいた



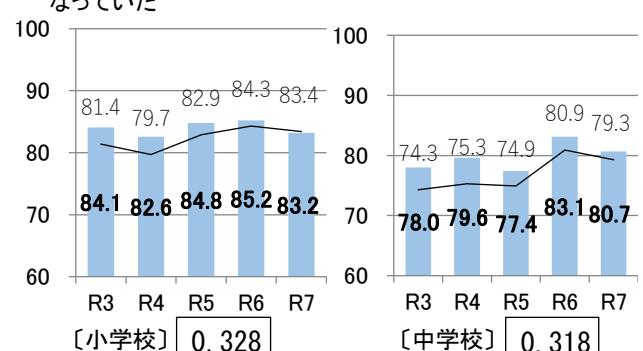
④ 自分と違う意見について考えるのは楽しいですか



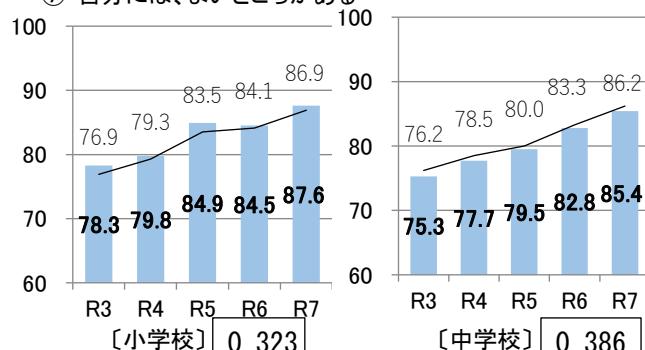
⑤ 先生は、あなたのよいところを認めてくれている



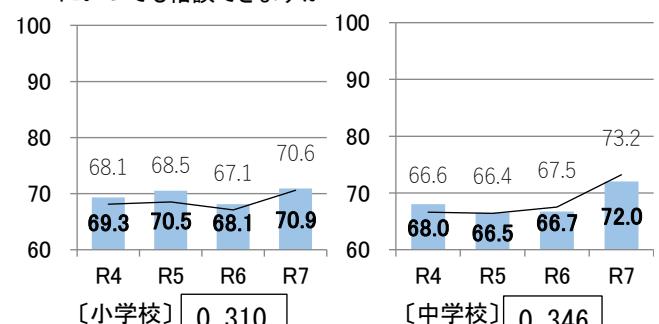
⑥ 授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていた



⑦ 自分には、よいところがある

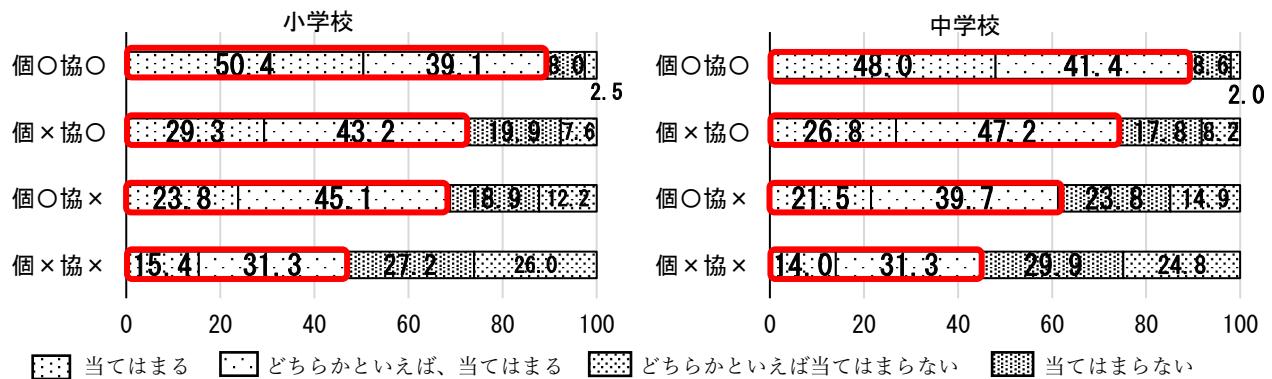


⑧ 困りごとや不安があるとき、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



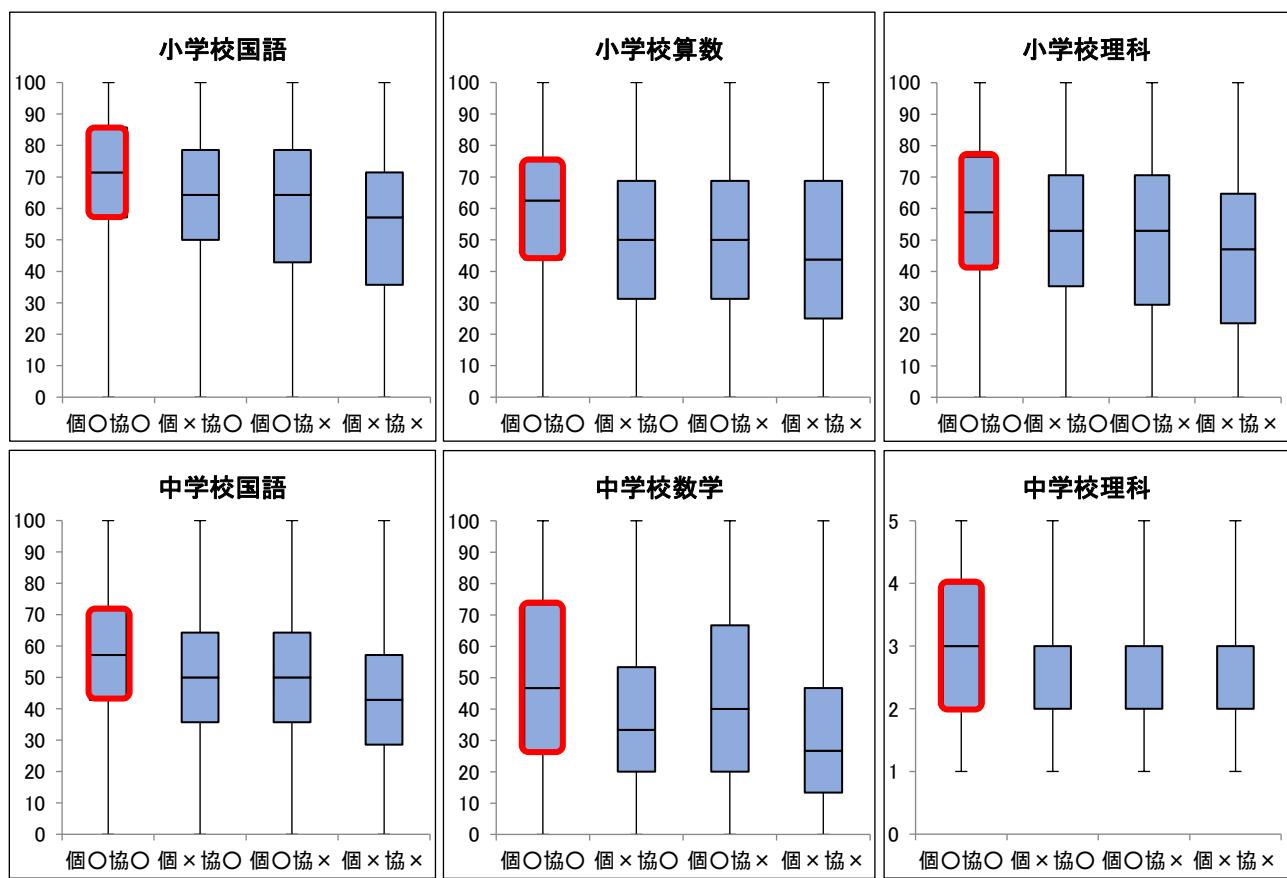
#### 4 「学校に行くのは楽しい」(児童生徒質問)の回答との三重クロス集計

(1) 「個別最適な学び（自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか）」と「協働的な学び（友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか）」と「学校に行くのは楽しい」との三重クロス集計。



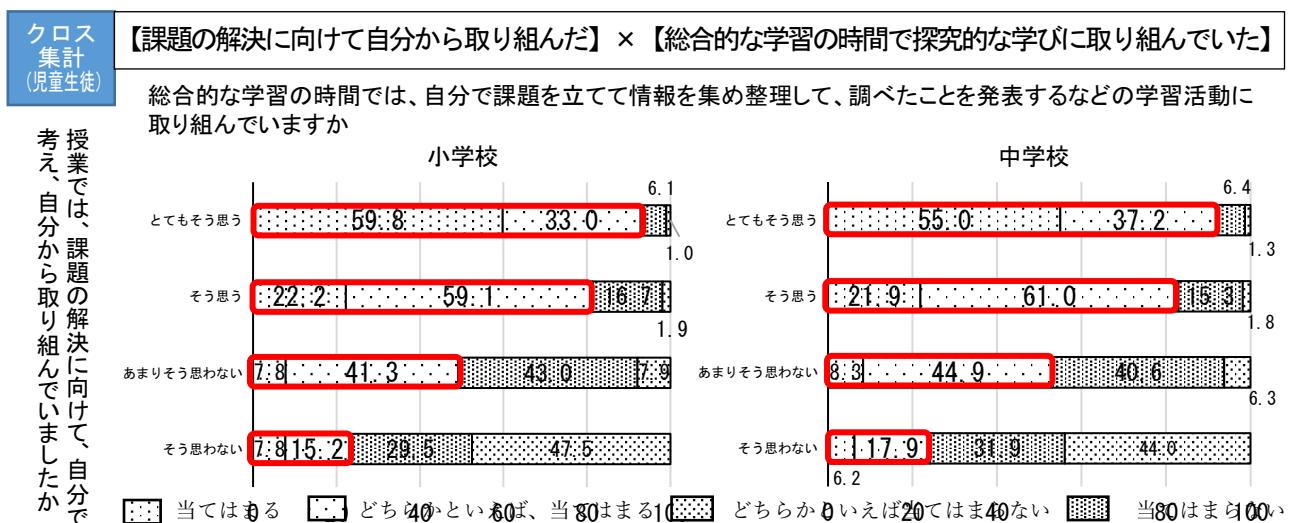
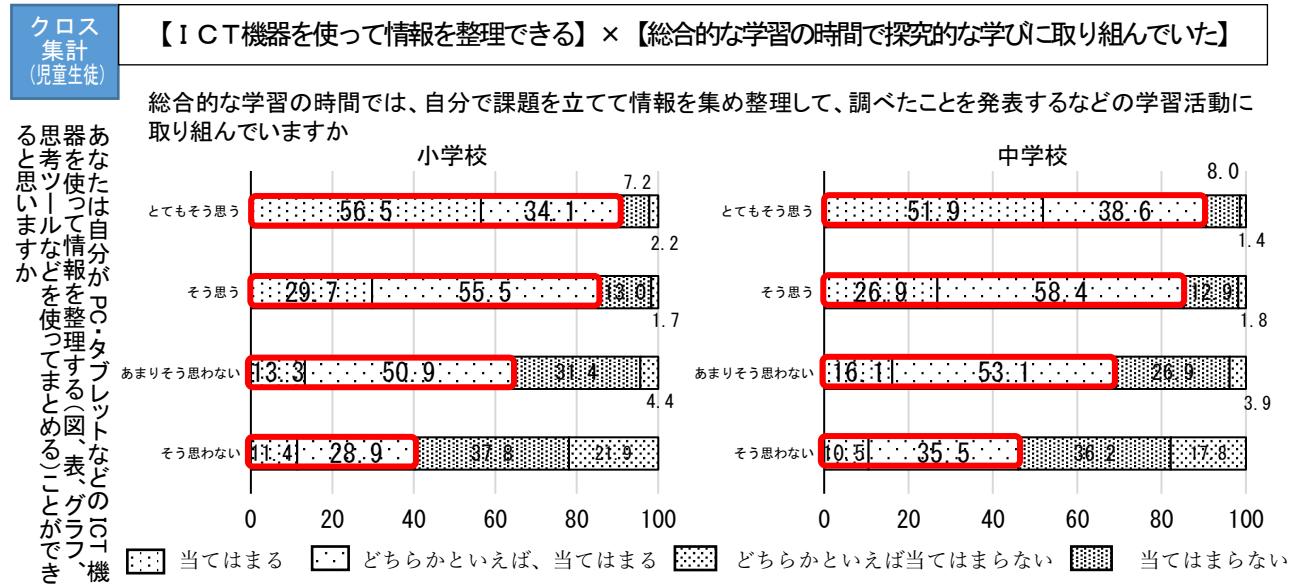
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両方に肯定的に回答している児童生徒（個○協○）の、「学校に行くのは楽しい」の肯定的な回答の割合は 90%に近い。また、他の回答（個×協○、個○協×、個×協×）よりも肯定的な回答の割合が高い。

#### (2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」と「各教科の正答率」との三重クロス集計（箱ひげ図）



いずれの教科においても、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両方に肯定的に回答している児童生徒（個○協○）の正答率を表す箱ひげ図の箱が、最も上の位置（正答率が高い位置）にあり、他の回答（個×協○、個○協×、個×協×）よりも、正答率が高い傾向がある。

## 5 探究的な学びに関する回答状況

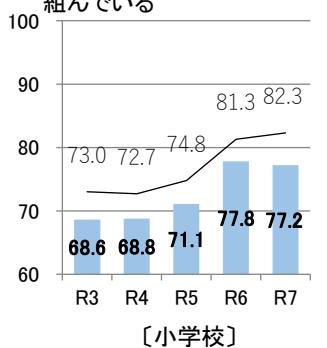


## 6 児童生質問調査の肯定的回答の状況（「探究」に関する質問等）

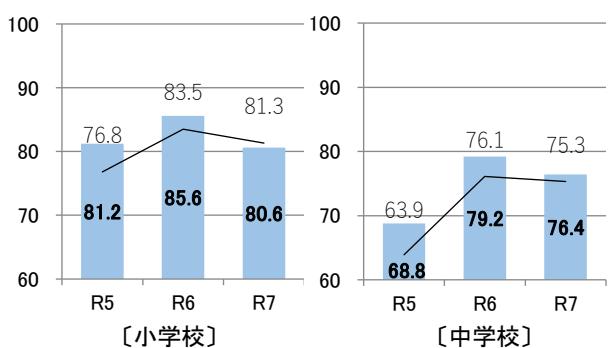
※肯定的回答は、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」を合わせた回答の割合

長野県 ————— 全国

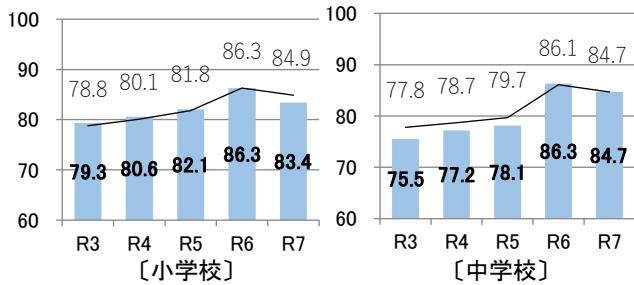
① 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる



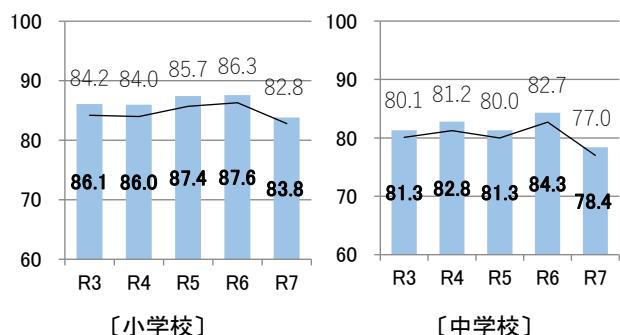
② 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う



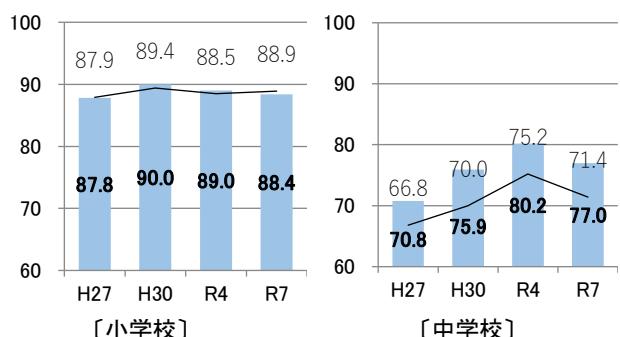
③ 学級の友達(生徒)の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方へ気付いたりすることができている。(～R5 広げたりすることができている)



④ 国語の授業の内容はよくわかりますか



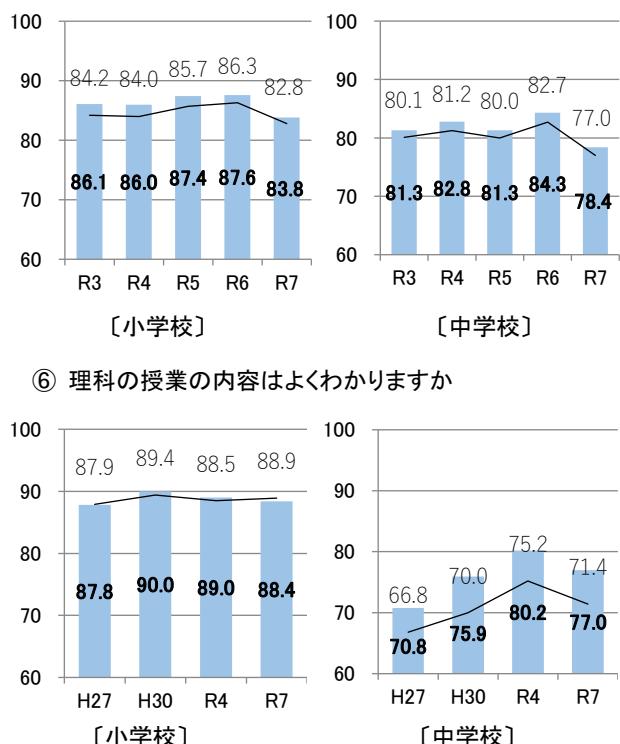
⑤ 算数・数学の授業の内容はよくわかりますか



「ICT機器を活用する自信がある」「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」(主体的・対話的で深い学びに関する回答)と回答している児童生徒ほど、探究的な学びに取り組んだと回答している傾向が見られる。

また、探究的な学びに関する肯定的な回答の割合は緩やかに増加している。

⑥ 理科の授業の内容はよくわかりますか



一方、各教科の「授業の内容がよくわかる」という小・中学校の児童生徒の肯定的な回答の割合は、令和6年度と比較すると減少している。

## 7 長野県と全国の平均正答数(正答率)・平均IRTスコアの比較(公立)

[上段]：平均正答数／設定問題数 [下段]：平均正答率

\*中学校理科のみ平均IRTスコアで表示

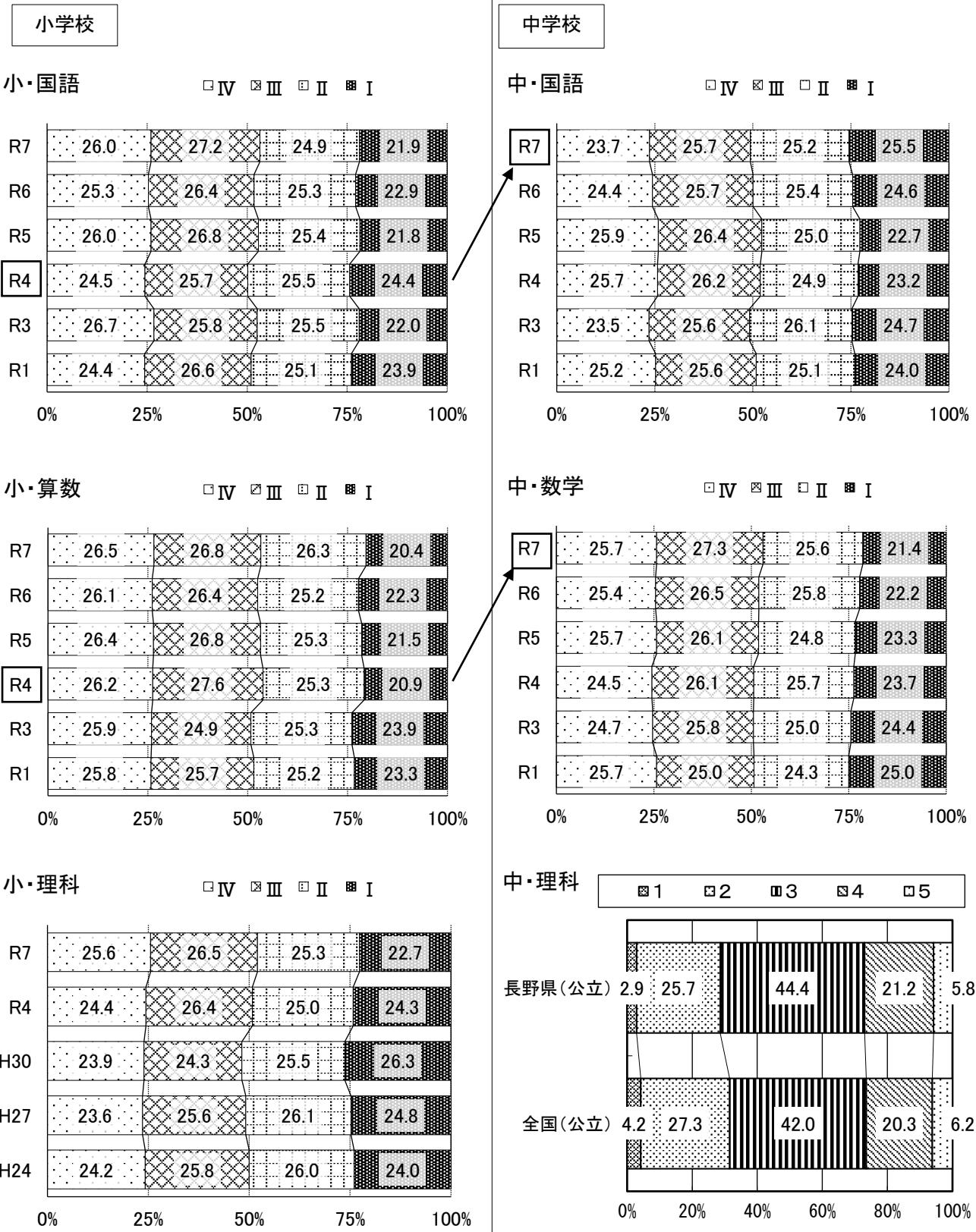
校種	年度 教科	令和7年度		年度 教科	令和6年度	
		長野県	全国		長野県	全国
小学校	国語	9.2／14問 66%	9.4／14問 66.8%	国語	9.4／14問 67%	9.5／14問 67.7%
	算数	8.9／16問 56%	9.3／16問 58.0%	算数	10.0／16問 62%	10.1／16問 63.4%
	理科	9.6／17問 56%	9.7／17問 57.1%	理科		
中学校	国語	7.7／14問 55%	7.6／14問 54.3%	国語	8.7／15問 58%	8.7／15問 58.1%
	数学	6.9／15問 46%	7.2／15 48.3%	数学	8.2／16問 51%	8.4／16問 52.5%
	理科	509	503	理科		

\*文部科学省において、平均正答率の微少な差異は実質的な学力面の違いを示すものではないため、都道府県の結果は小数点以下を四捨五入した整数値としている。

\*IRTスコアとは、IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。

## 8 分布に着目した経年の状況

全国の受検者を正答数の多い順に並べ、上位から 25%ずつ4分割(境界を含む階級の度数を按分することで、4等分となるよう補正)し、それぞれの区分を I、II、III、IVとした上で、各区分に入る長野県の児童生徒の割合を求めたもの。



※表中の矢印は、同一の児童生徒集団であることを示している。

## 9 今回の結果を踏まえた重点的な取組

- 県が目指す「一人の子供も取り残さない『多様性を包み込む』学び」を進めるうえで、学校が子どもにとって「楽しい」「行きたくなる」場所であることが重要です。全国学力・学習状況調査の結果を、各学校が子どもの目線に立って学校の仕組みを見直す契機となるよう提供し、子どもにとって魅力ある学校づくりを支援します。
- 教科の平均正答率等と児童生徒質問調査の結果を多面的に分析し、学校づくりの参考となる資料を作成し、市町村（学校組合）教育委員会や各学校が取り組む学校改革に対しての効果的な支援につなげます。
- 不登校の子どもたちが増加している実態と、児童生徒質問調査に回答している子どもの実態を分析し、県の目指す楽しい学校づくりに、実際の子どもの声として活用します。
- 調査結果は、子どものよさや可能性を伸ばす材料として活用できるように、各学校へ伝えていきます。

# 個人表 から見える その子の「よさ」や「可能性」

令和7年度全国学力・学習状況調査【小学校】調査結果

学校名	答案番号	組	氏名
B150290029430小学校	9 0 0 0 3 6 3 1		

**算数**

●全国の状況（正答数ごとの児童の割合）

●出題内容

算数では、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」に関する内容について出題しています。

問題番号	問題の内容
④ (1)	2022年の全国のブロックリーの出荷量が2002年の全国のブロックリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ
① (2)	都道府県Aのブロックリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く
③ (3)	示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ
④ (4)	示された資料から、必要な情報を選び、ピーマン1個とブロックリー4個の重さを求める式と答えを書く
2 (1)	示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ
2 (2)	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ
2 (3)	角をつくる二つの辺をそれぞれのばした图形の角の大きさについてわかることを選ぶ

Aさんの算数の結果から、点数の奥にある、Aさんの「よさ」や「可能性」を捉えて伝えていきましょう。

## Aさんの「よさ」や「可能性」を捉えましょう

見るのは点数だけじゃない！

- 6問正答の分野を分析して見た、基礎的な問題に対して理解ができているAさんのよさ（①）
- 無解答が少なく難しい問題でも諦めずに取り組み、すべての問題にチャレンジするAさんのよさ（②）

→ このベースの上に、今後の伸びしろがありそう

## Aさんの「よさ」や「可能性」を捉えましょう

どんな力が育っているかな？

- 「データの活用」に関する問題の正答数が多いことは、ノートにグラフや表を使ってわかったことを丁寧に整理しているAさんの学び方のよさとつながる（③）
- 日常にある事象を、学習して身に付けたこととつなげて考えることができるのは、普段から、身の回りの事に興味をもって取り組んでいるAさんのよさ（④）

→ 今後、具体的な事象をもとに考えたり、実際に操作したりする場面を設けることで、より深い理解につながる伸びしろがありそう

お問い合わせはこちちら

長野県教育委員会事務局  
学びの改革支援課



026-235-7434

# 調査結果から見える

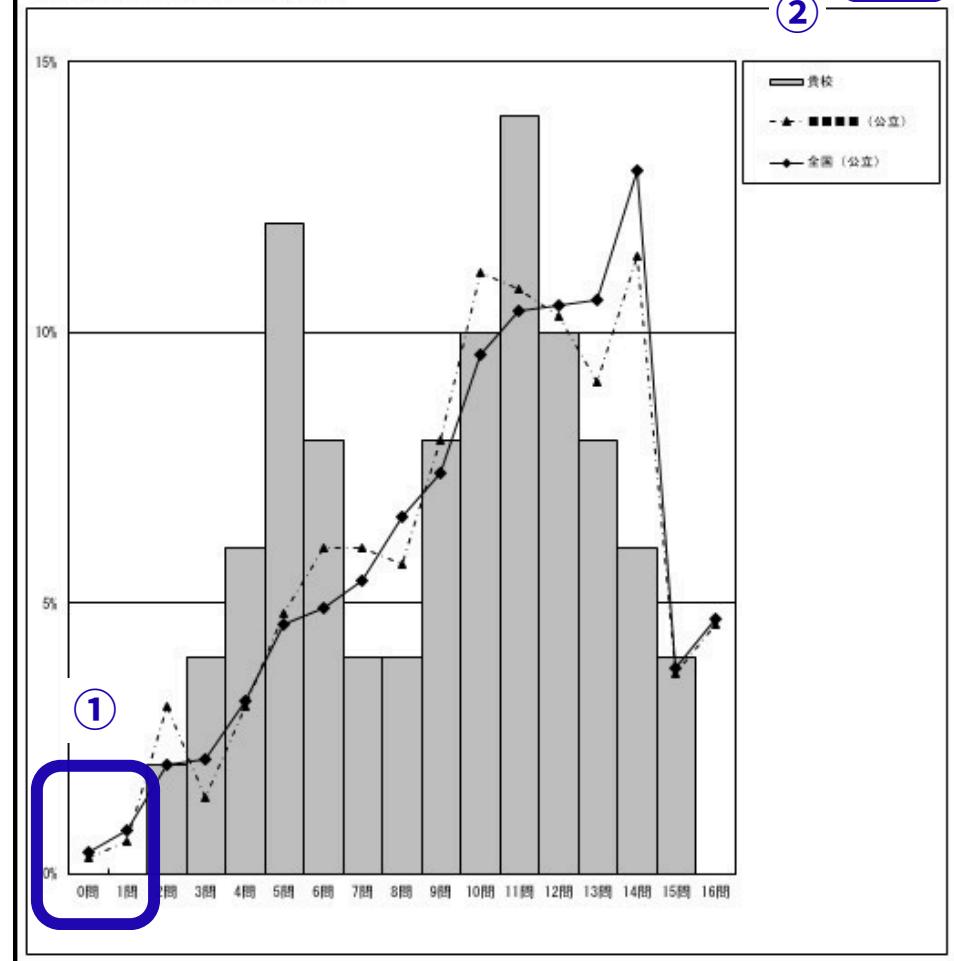
## あなたの学級の「よさ」や「可能性」

### 調査結果概況【算数】 B150290029430小学校一児童

以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、児童を新規として集計した値である。  
※ただし、4月17日に調査を実施していない学校については、4月18日以降4月30日までに実施した調査の値

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
B150290029430小学校	50	9.0 / 16	56	10.0	3.5
■■■■(公立)	351	10.0 / 16	63	10.0	3.6
全国(公立)	3,033	10.2 / 16	63.8	11.0	3.7

正答数分布グラフ(横軸：正答数 縦軸：割合)



全国学調の結果（ある学級の算数）から、今後の取組にフィードバックしていきましょう。

### 学級の「よさ」や「可能性」を捉えましょう

#### どんな力が育っているかな？

- ・0～1問の児童が一人もいない（①）
- ・全体的にばらつきが小さい（②）

→ 子ども同士の対話による学習場面の設定が、子どもたちの伸びしろを最大限に引き出すことが期待できそう

#### 調査結果と、その子自身を照らし合わせながら、多面的な視点で「よさ」や「可能性」を分析しましょう！

#### 「児童生徒質問調査」からどんな「よさ」が見えてくるかな？

例えば…

- ・「自分には、よいところがある」と肯定的に回答している子どもに
  - 「自分のよさに気づけるって、とても素敵なことだね。あなたの〇〇〇というよさは、周りの人にも伝わっていますよ。」
  - 「～～の活動の時間に、あなたのもっている〇〇〇なよさが表っていましたよ。」

お問い合わせはこち

長野県教育委員会事務局  
学びの改革支援課

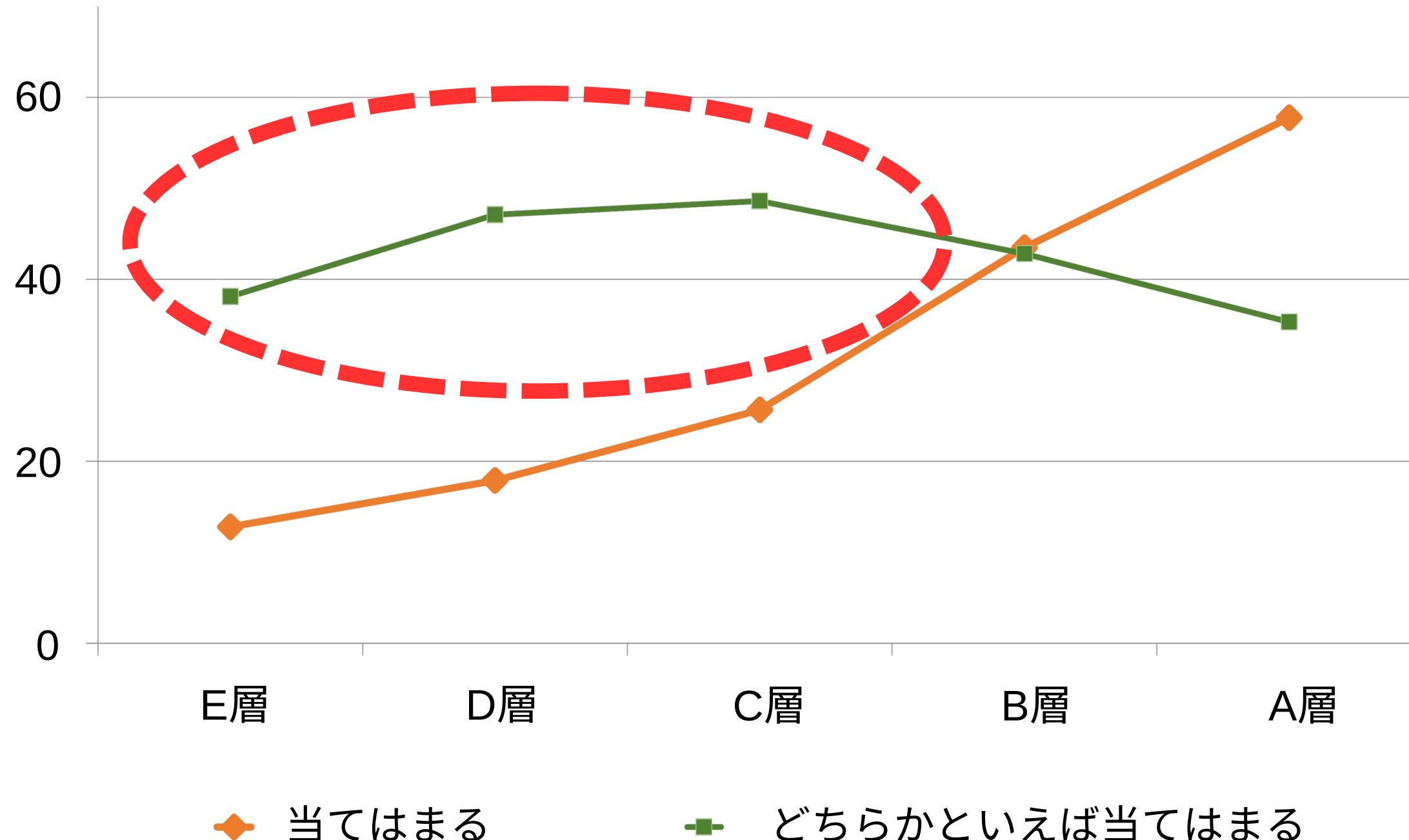
026-235-7434



# 全国学力・学習状況調査 授業充実のかぎ

## 長野県の子どもの「よさ」や「可能性」

「数学の授業の内容はよくわかりますか」の回答状況



### グラフの見方

中学校数学を受けた生徒を、正答数の多い順に並べて、上位から20%ずつ5つのグループに分けたものがA～E層です。グラフは「数学の授業の内容はよくわかりますか」という質問に対する肯定的回答の割合を示しています。

例えば、正答数の多いA層は「授業の内容はよくわかりますか」の質問に対して、「当てはまる」と回答している生徒が約60%いることが読み取れます。また、正答数が多くなるにつれ、「当てはまる」の回答が増えています。

### Q の部分に注目！どんなことが考えられるでしょう？

正答数の多くない、C～E層に「数学の授業の内容はよくわかりますか」の質問に、「どちらかといえば当てはまる」の生徒が、40～50%います。どうしてでしょう？

### の部分の子供の「よさ」や「可能性」は何でしょう？

- 「どちらかといえば当てはまる」と回答していることから、授業に一生懸命取り組んでいる？
- 「どちらかといえば当てはまる」と回答していることから、基本的な計算はできている？

でも、もしかしたら、授業のねらいが曖昧になっているから、その子なりの何となくこんなことができたという思いが、「どちらかといえば当てはまる」につながったかもしれない。

### 「よさ」や「可能性」を伸ばしましょう！

- 一生懸命取り組んでいることを認めることは大事。基礎基本の定着も大事。それ以外にも、
- 教師も、子どもも授業のねらいが明確になるように、板書に位置づけよう。
  - 振り返りの場面で、学びを子ども自身で自覚できるようにしよう。振り返りが単なる感想で終わらないように、「何がわかったか」「何ができるようになったか」「どうしてできるようになったか」を視点に、振り返りができるようにしよう。

### お問い合わせ

長野県教育委員会事務局

学びの改革支援課 ☎ 026-235-7434